

# <暮らしの夢から“かたのサイズ”をめざす像までの流れ>

## 暮らしの夢

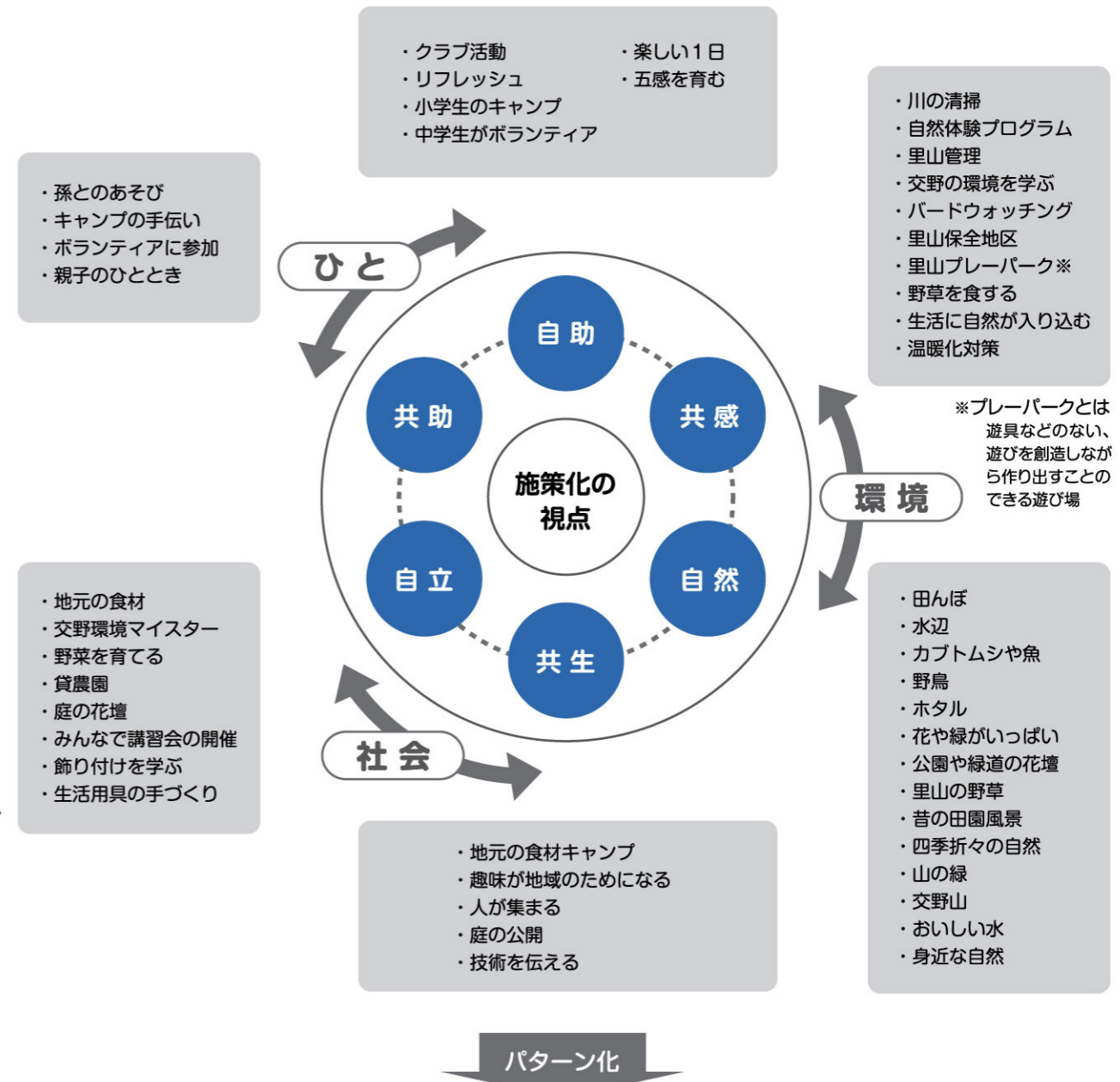
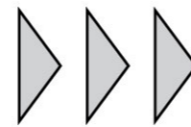
### 6. 身近な緑を愛し、守り、育て、自然との共生を楽しむ暮らし

僕は、お父さんやおじいさんによく釣りに連れて行ってもらった。中学生になってからはクラブで忙しくて、あまり行かなくなったが、それでも時々、自転車で田んぼの中を走ってリフレッシュする。  
夏休みに小学生のキャンプのお手伝い募集があった。「釣りが好きな中学生」と書いてあったので、思わず申し込んだ。キャンプの前に川掃除の日があったり、小学生に釣りを教えるのは大変だったけど、久しぶりに楽しい一日だった。  
(中学生)

私は、小さい頃祖父に交野の山や川に連れていってもらい、カブトムシとりや魚つりをしていた。社会人になって久しぶりに「交野自然体験プログラム」に参加した。  
以来、時々休みを利用して、農業や里山管理、地元の食材キャンプなどのお手伝いしている。ここで実践をつむと、交野環境マイスターに登録することができる。  
趣味が地域のためになっていると思うと、ついつい本気になってしまう。  
(30歳代男性)

私は、家の近くで貸し農園を借りて野菜を育て、ボランティアとして、天野川の清掃活動や星田山の間伐などに参加している。その成果もあって、ハイキングをしてもとても気持ち良く、バードウォッチングやホタルの乱舞も楽しめる。  
里山保全地区に里山プレーパークをみんなでつくった。昔をなつかしむ人があつまればよいと思っていたが、最近は親子で参加したいという人も増え、体験プログラムを実施している。  
(高齢者)

地域の花好きの人が集まって、各家の庭だけでなく、公園や緑道で花壇づくりをしている。みんなで講習会を開催して、美しいディスプレイの方法も勉強している。  
最近、交野の里山にある野草を育てて増やし、それを食する活動や昔の田園風景を再現してみようという学習会にも参加している。里山管理のお手伝いをしてクズカゴづくりを教えてもらった。  
生活の中に、少しずつ交野の自然が入り込んできた。ヒートアイランド対策にも役立つようだ。  
(緑が好きな方)



No.	“かたのサイズ”をめざす像
9	五感を大切にして、情緒豊かな時間を味わっている
26	いつでも身近なところで学びや活動、体験ができる
44	農園で、土にふれ、野菜づくりを楽しんでいる
45	まち中の身近な空間で、うるおいづくりに取り組んでいる
46	毎日の暮らしの中に、自然の恩恵を感じている
47	川や池など水辺環境がきれいで、潤いがある
48	道路や公園など生活環境がきれいに保たれている
49	里山の植生が豊かで大切な憩いの場となっている
50	自然の中では多様な生き物と触れ合うことができる
51	山も里も四季折々の景観が楽しめ風情を感じる